

ワカメ養殖通報（臨時通報：タレストリス寄生症の発生について）

【調査の概要・対策】

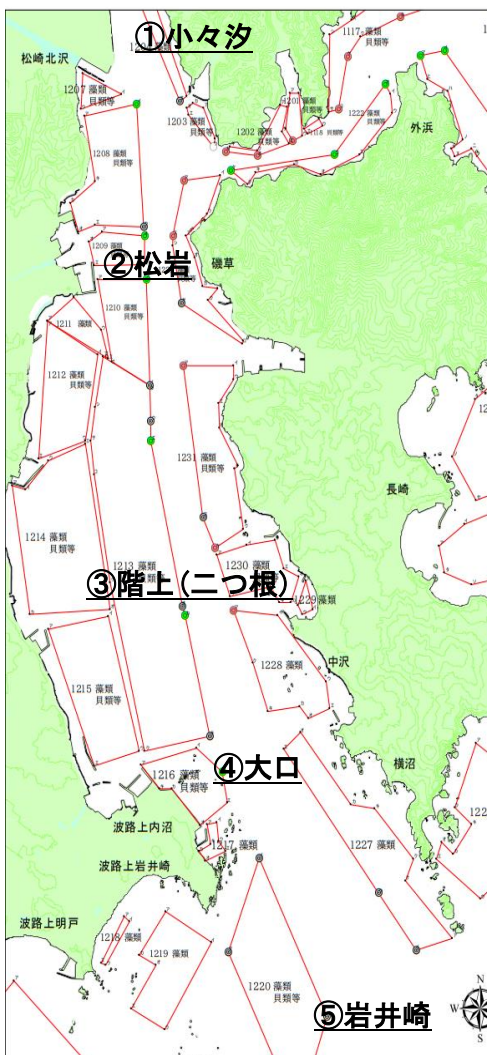
- ・気仙沼湾内において、タレストリス寄生症の発生に関する情報提供があったことから、令和7年1月28日（火）に気仙沼湾内の5か所（以下の図①～⑤）において調査を実施しました（図1）。
- ・気仙沼湾の湾中央から湾口の③～④付近（水温 11.6～12.2℃）のワカメに、タレストリス寄生症、通称「ブチ」が確認されました（写真1）。
- ・タレストリス寄生症が確認されたワカメからは、本症の原因であるアメノフィア・オリエンタリスの成体及び幼生が確認されました（写真2）。
- ・抜本的な対策はないため、葉体の状況を注意深く観察し、早期刈り取り等の対応をご検討願います。

【タレストリス寄生症とは】

- ・タレストリスとは寄生性の小型甲殻類の総称で、本症はアメノフィア・オリエンタリス (*Amenophia orientalis*) の幼生がワカメ葉体の内部に寄生することで穴（寄生痕）ができる。
- ・寄生痕には集合した穴と、連続した穴の2形態が見られ、著しくなると、葉体全体に広がる。
- ・5～15℃程度の温度範囲で活動し、水温が高いほど産卵周期が短く、成長が早い。

【気仙沼湾内の状況】

〈図1〉



〈表1〉

調査点	水温	
	層	水温
①小々汐	表層(0m)	10.7
	底層(11m)	11.2
②松岩	表層(0m)	11.6
	底層(15m)	11.7
③階上(二つ根)	表層(0m)	11.6
	底層(8m)	11.4
④大口	表層(0m)	12.2
	底層(10m)	12.1
⑤岩井崎	表層(0m)	12.7
	底層(26m)	12.6



〈写真1〉気仙沼湾内で確認されたタレストリス寄生症のワカメ



〈写真2〉ワカメに確認されたアメノフィア・オリエンタリス（上：幼生、下：成体）